

## 第三期計画の基本方針 (案)

### 第三期高知市健康づくり計画 歯科口腔保健の取組について

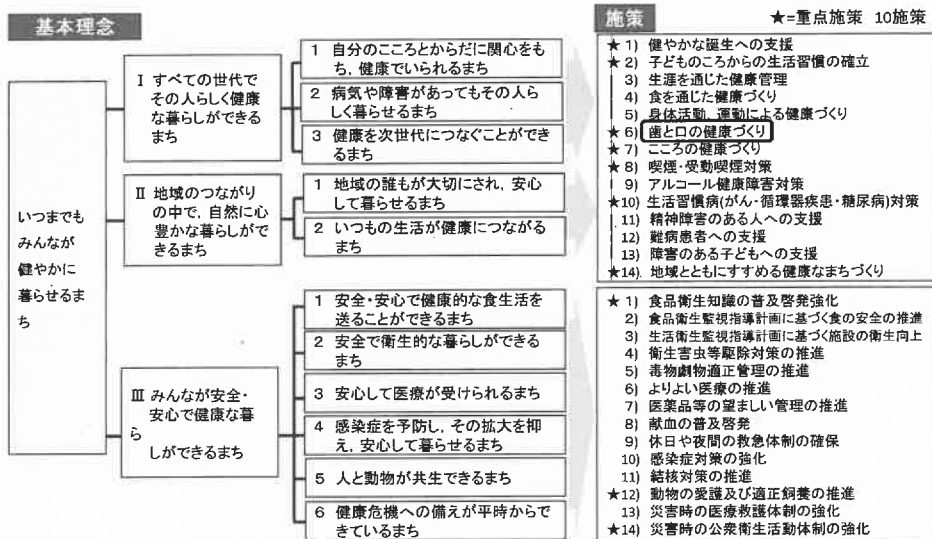
令和5年10月13日  
高知市口腔保健支援センター

### 健康寿命の延伸と健康格差の縮小を目指します

- ◆ 一人ひとりの未来を見据え、次世代へと続く健康づくりを進めます
- ◆ 多様な主体がつながることで、みんなが健康になれる環境づくりを進めます
- ◆ 健康危機に備えて保健所機能を強化します



### 第三期計画の体系図 (案)



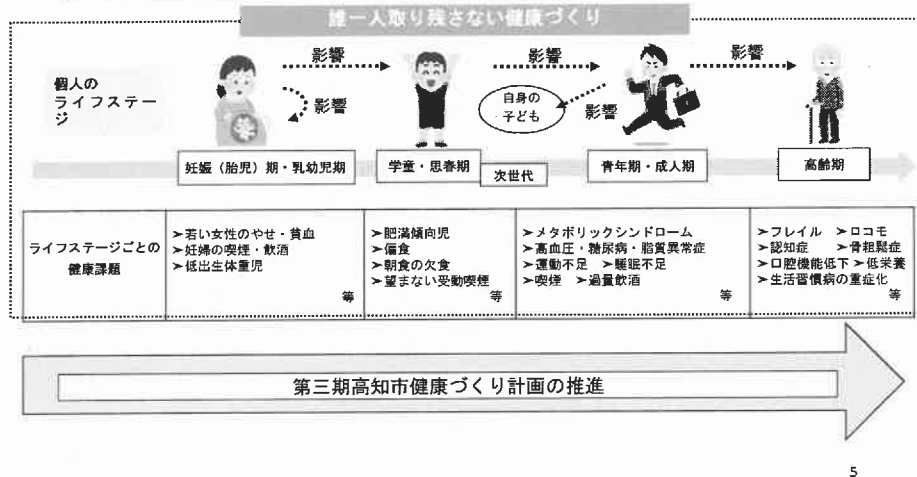
### 施策に共通する視点

- ライフコースアプローチを踏まえた健康づくり
- 誰一人取り残さない健康づくり
- 地域とともにすすめる健康づくり
- 保健所の機能強化



## ライフコースアプローチを踏まえた健康づくり

ライフコースアプローチとは  
人の生涯を、胎児期から高齢期に至るまで経時的につなげて考えること



5

## 【総括評価】 ○ ⇒ 重点施策として継続

指標	計画策定時(H28)	目標値(R3)	現状値(R4)
●学童期のむし歯のあるものの割合 ・12歳児	44.7%	40%	28.9%
●学童期の歯肉に所見のあるものの割合 ・中学生	30.5%	26%	27.8%

指標	現状値(H29)	目標値(R4)	現状値(R5)
●歯周病と全身への影響周知度	46.5%	60%	54.6%
・糖尿病	33.0%	50%	34.0%
・早産・低出生体重児出産	32.1%	50%	37.4%
・肺炎			
●ゆっくりよく噛んで食事する人の割合	35.8%	45%	44.7%

6

## 歯科口腔保健の推進に関する基本的事項(第2次)における目標

(2024~2035) 健康日本21(第3次)と合わせて策定

### 目標(案)

1. 歯・口腔に関する健康格差の縮小
2. 歯科疾患の予防
3. 生活の質の向上に向けた口腔機能の獲得・維持・向上
4. 定期的な歯科検診又は歯科医療を受けることが困難な者に対する歯科口腔保健
5. 歯科口腔保健を推進するために必要な社会環境の整備

7

歯科口腔保健の推進に関する基本的事項(第2次)における目標・指標(案)

## 1. 歯・口腔に関する健康格差の縮小

歯・口腔に関する健康格差の縮小によるすべての国民の生涯を通じた歯科口腔保健の達成

- (1) 3歳児で4本以上のう蝕のある者の割合

国の目標 2032年:0%

- (2) 12歳児でう蝕のない者の割合が90%以上の都道府県数

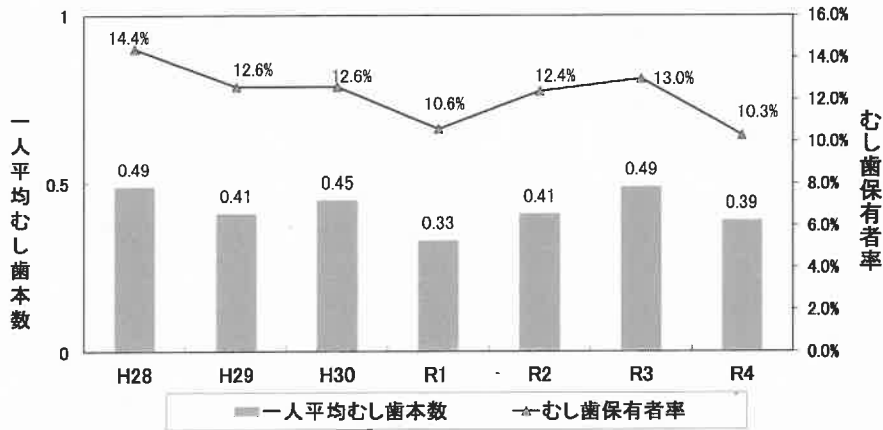
国の目標 2032年:25都道府県

- (3) 40歳以上における自分の歯が19歯以下の者の割合

国の目標 2032年:5%

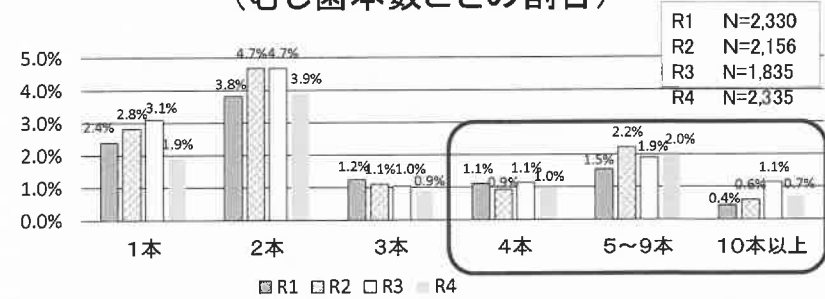
8

### 3歳児歯科健診結果(経年変化) (むし歯保有者率, 一人平均むし歯本数)



R4は、むし歯保有者率が一番減少したが、一人平均むし歯本数はR1より多い。

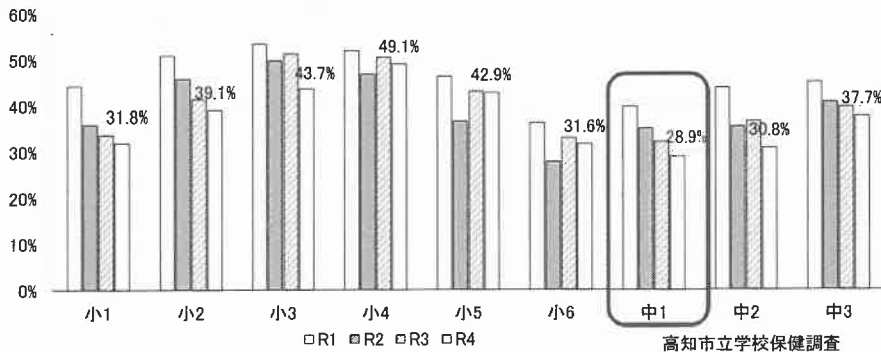
### 3歳児歯科健診結果(高知市) (むし歯本数ごとの割合)



	むし歯のない者	むし歯が4本以上ある者	
R1	89.4%	3.1%	参考:国(R1)3.5%
R2	87.6%	3.8%	
R3	87.0%	4.2%	
R4	89.7%	3.7%(86人)	

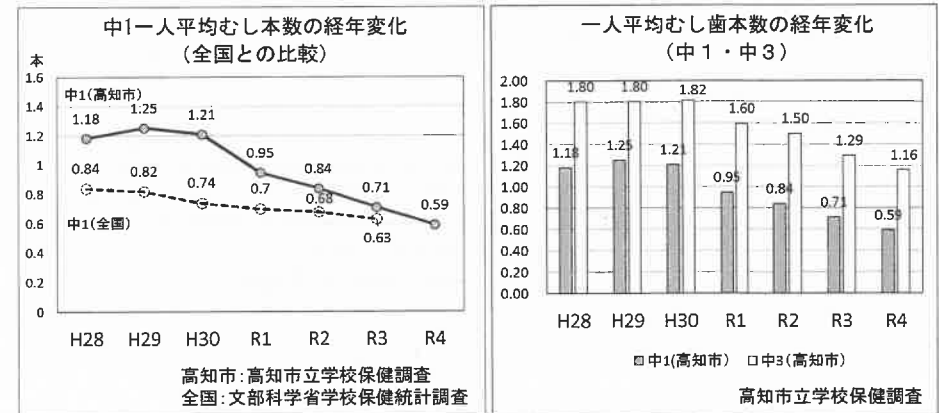
むし歯4本以上の割合は、R4は3.7%だった。むし歯のない者の割合が一番多いが、4本以上ある割合はR1より多かった。

### 学校歯科健康診断の結果 高知市立学校のむし歯のある者の割合 (乳歯・永久歯)(経年変化)



中学校1年生(12歳児)のむし歯のある者の割合は、年々減少している。

### 学校歯科健康診断の結果 高知市立学校 永久歯一人平均むし歯本数 (経年変化)

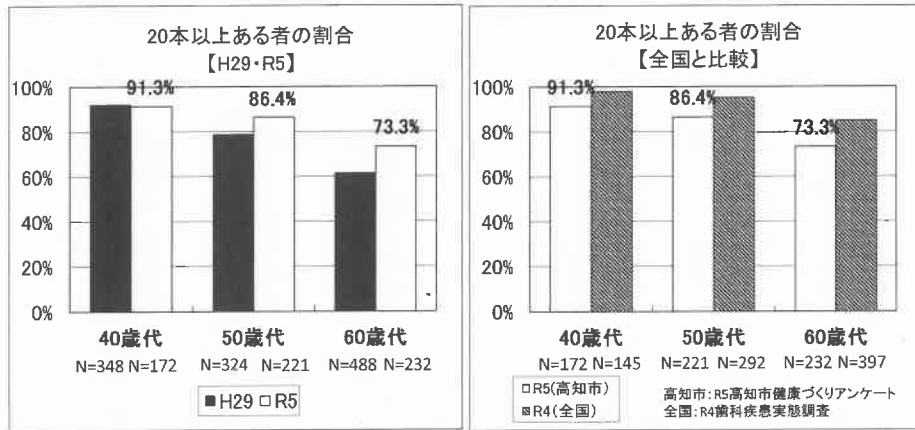


中学1年生(12歳児)の永久歯一人平均むし歯本数は減少しており、令和4年度は令和3年度の全国平均を下回っている。

中学3年生は年々減少はしているがまだまだ多い。(第二大臼歯が中学校入学前後から萌出し始めるため、中学校の時期にむし歯になりやすい。)

## 残存歯数「20本以上ある者の割合」

【40歳以上年代別・前回と比較】 【40歳以上年代別・全国と比較】



20本以上ある人の割合は、前回より50歳代、60歳代が増加しているが、全国と比べると少ない。

\*40~60歳代 19歯以下の割合R5:11.4%(年齢調整値)

13

## 2. 歯科疾患の予防

う蝕の予防による健全な歯・口腔の育成・保持の達成

(1) 3歳児で4本以上のう蝕のある者の割合(再掲)

国の目標 2032年:0%

(2) 12歳児でう蝕のない者の割合が90%以上の都道府県数(再掲)

国の目標 2032年:25都道府県

(3) 20歳以上における未処置歯を有する者の割合

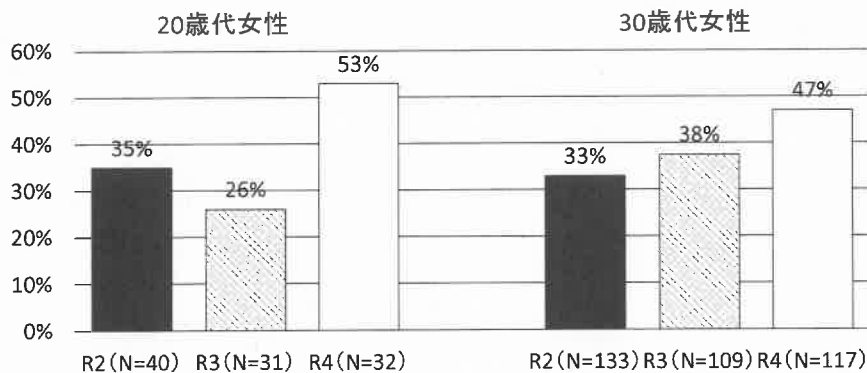
国の目標 2032年:20%

(4) 60歳以上における未処置の根面う蝕を有する者の割合

国の目標 2032年:5%

14

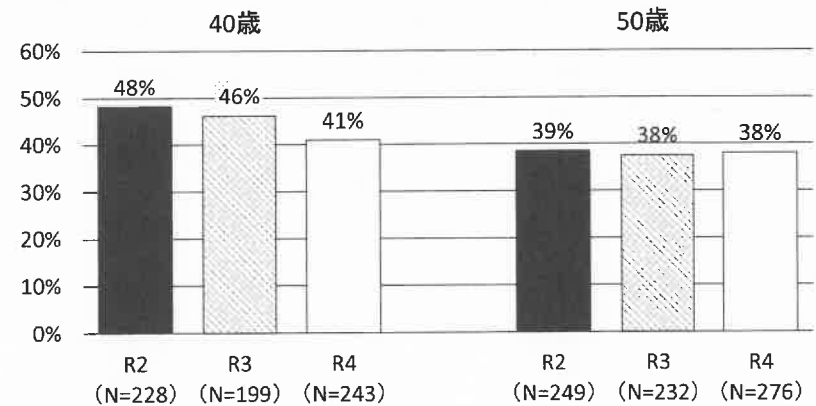
## 令和4年度 女性健診 歯科健診結果 未処置歯を有する者の割合(経年変化)



女性健診受診者の未処置歯を有するものの割合は、R4の受診者は20歳代も30歳代も多い。

15

## 成人歯周病検診結果 未処置歯を有する者の割合(経年変化)

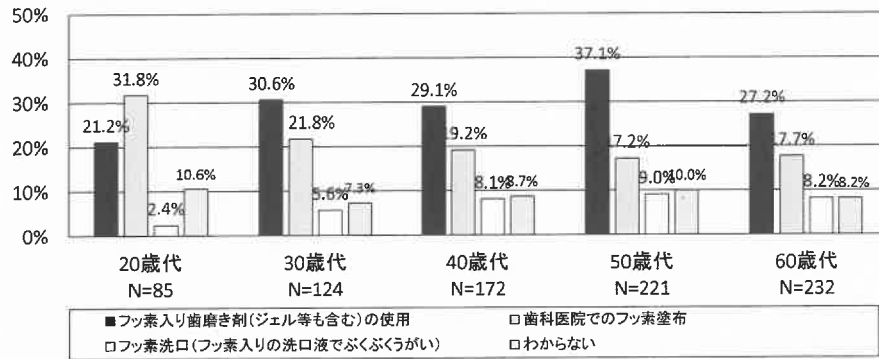


成人歯周病検診受診者の未処置歯を有するものの割合は、40歳は年々減少している。50歳はあまり変わらない。

16

## フッ化物を用いたむし歯予防の実施 【年代別】

N=834



20歳代は、フッ素塗布が一番多かった。  
全年代でフッ素入り歯磨き剤の使用率は低い。

参考 R4全国(歯科疾患実態調査)  
フッ素入り歯磨き剤使用 .52.4%

17

歯科口腔保健の推進に関する基本的事項(第2次)  
における目標・指標(案)

## 2. 歯科疾患の予防

### 歯周病の予防による健全な歯・口腔の保持の達成

#### (1) 10代における歯肉に炎症所見を有する者の割合

国の目標 2032年:10%

#### (2) 20代～30代における歯肉に炎症所見を有する者の割合

国の目標 2032年:15%

#### (3) 40歳以上における進行した歯周炎を有する者の割合

国の目標 2032年:40%

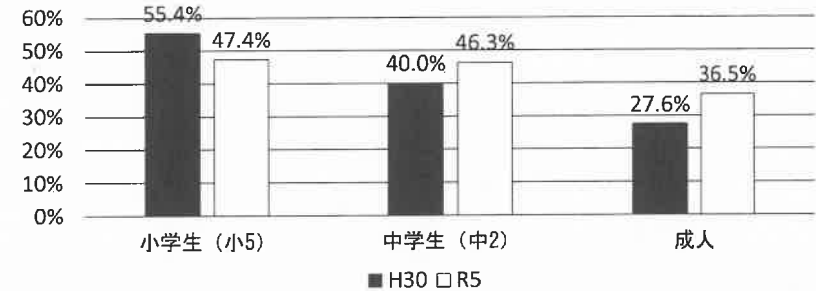
19

## 高知市食育に関するアンケート調査結果

### フッ素入りの歯磨剤を使用している者の割合

【前回との比較】(口の健康のために気をつけていること 複数回答の中から抜粋)

#### フッ素入りの歯磨剤を使用している者の割合 【H30, R5比較】

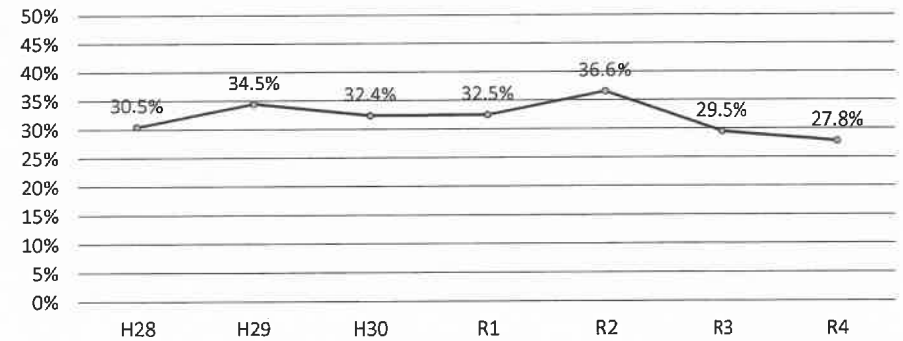


中学生、成人は前回調査より使用している者の割合が増加していた。

18

## 学校歯科健康診断の結果

### 歯肉に炎症所見(G,GO)のあるものの割合 (中学生)(経年変化)



高知市立学校保健調査

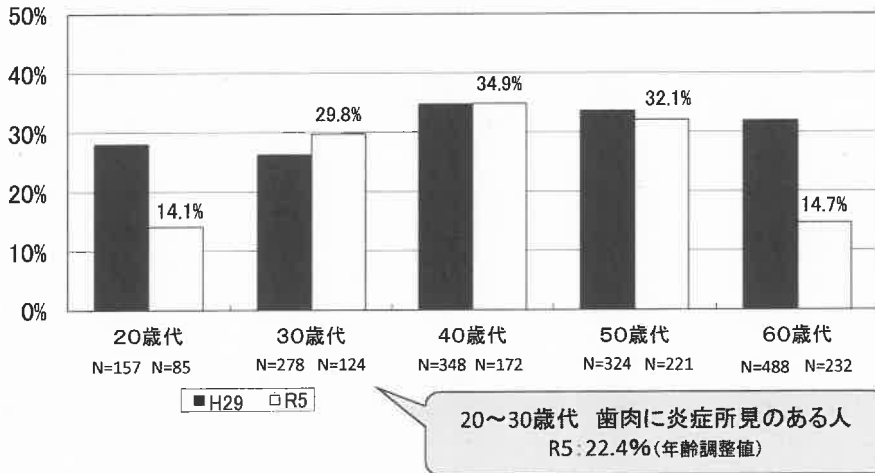
中学生の歯肉に炎症所見のあるものの割合は令和2年度は増加していたが、減少してきている。

20

令和5年度高知市健康づくりアンケート結果

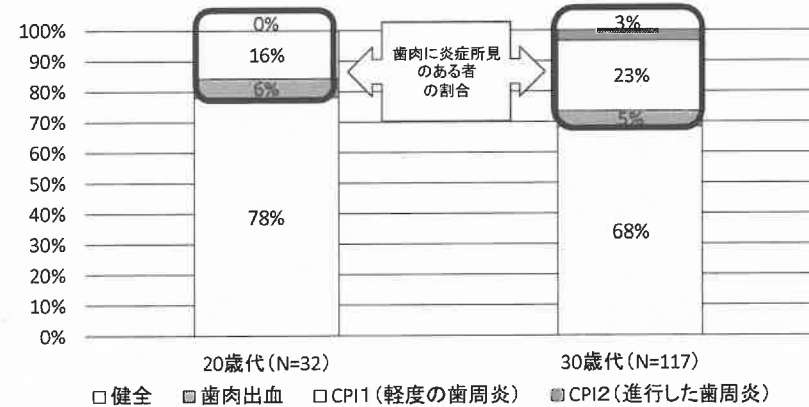
歯肉に炎症所見のある人の割合  
【年代別・前回との比較】

「歯肉に炎症所見のある人」とは、「歯ぐきが腫れている」「歯を磨いたときに血がでる」の何れかに回答した人



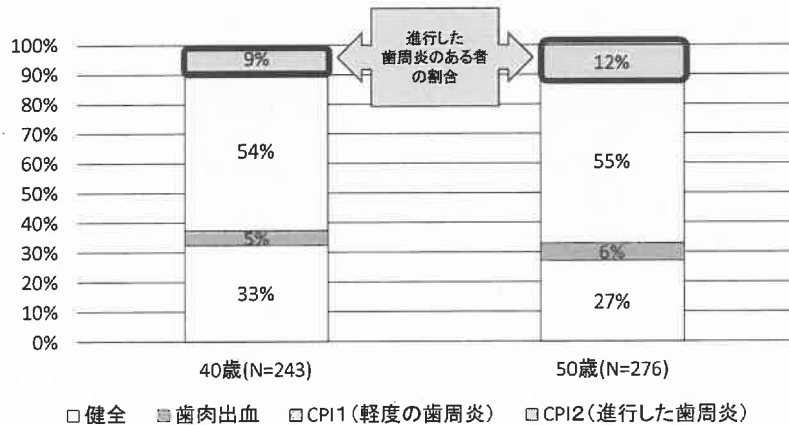
20歳代と、60歳代が前回より大幅に減少している。

令和4年度 女性健診 歯科健診結果  
歯肉の状況(20歳～39歳)



20歳代は歯肉出血6%、CPI1（軽度の歯周炎）16%、CPI2（進行した歯周炎）0%だった。  
30歳代は歯肉出血5%、CPI1（軽度の歯周炎）23%、CPI2（進行した歯周炎）3%だった。

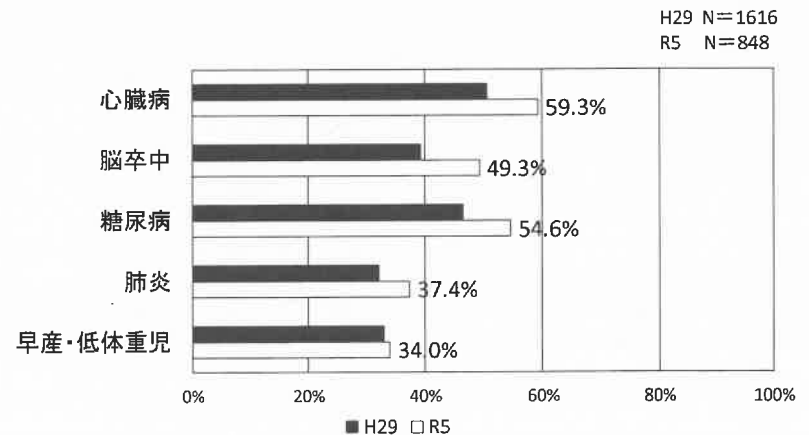
令和4年度 成人歯周病検診結果  
歯肉の状況(40歳, 50歳)



進行した歯周炎（CPI2）を有する者の割合は、40歳9%、50歳12%だった。

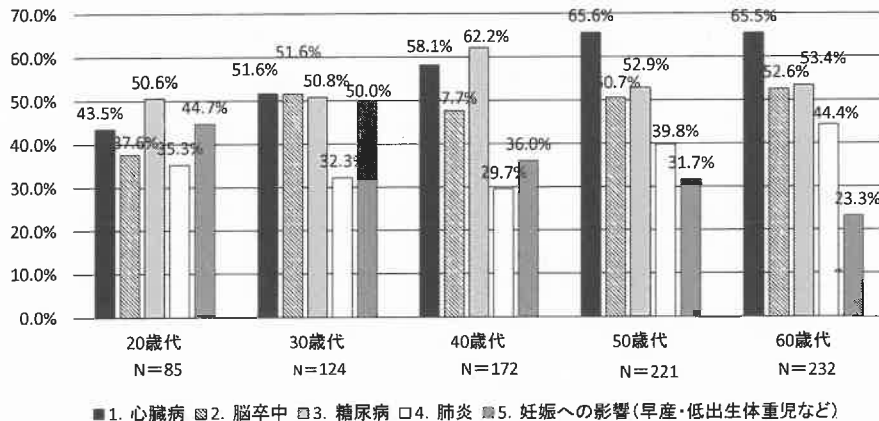
令和5年度高知市健康づくりアンケート結果

歯周病と全身への影響の周知度



前回より周知度は増加しているが、肺炎と早産、低体重児出産はまだ低い。

## 歯周病と全身への影響の周知度



年齢別で見ると、妊娠への影響は若い世代は周知度が高かった。  
肺炎は60歳代が一番高かった。  
糖尿病は40歳代では目標値の60%を超えていた。

歯科口腔保健の推進に関する基本的事項(第2次)  
における目標・指標(案)

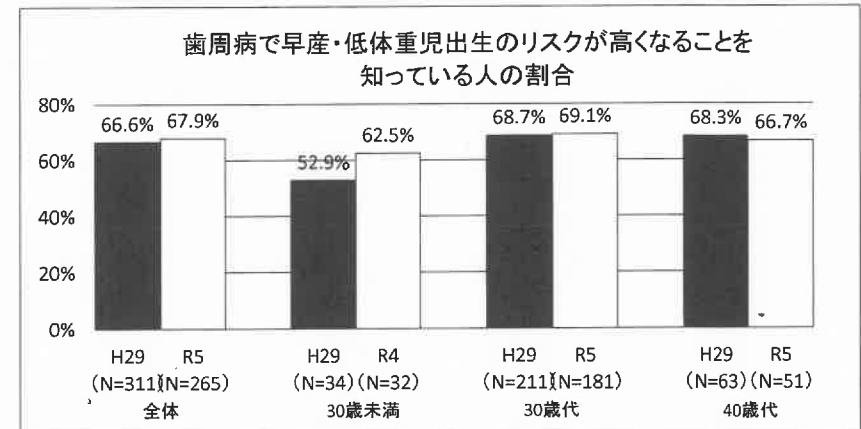
## 2. 歯科疾患の予防

歯の喪失防止による健全な歯・口腔の育成・保持の達成

(1) 40歳以上における自分の歯が19歯以下の者の割合  
(再掲) 国の目標 2032年: 5%

(2) 80歳で20歯以上の自分の歯を有する者の割合  
国の目標 2032年: 85%

## 歯周病の影響の周知度



子どもがいる保護者は歯周病の妊娠への影響(早産・低体重児)についての周知度が高かった。30歳未満は前回より増加していた。

歯科口腔保健の推進に関する基本的事項(第2次)  
における目標・指標(案)

## 3. 生活の質の向上に向けた口腔機能の獲得・維持・向上

生涯を通じた口腔機能の獲得・維持・向上の達成

(1) 乳幼児期からの口腔機能の獲得, 良好な口腔の成長  
発育

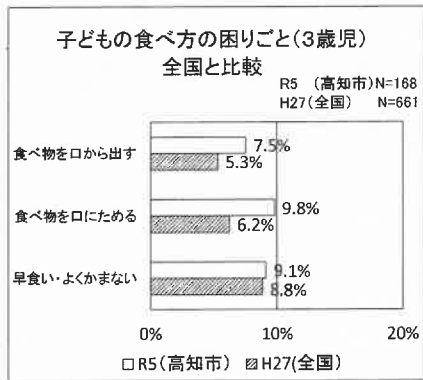
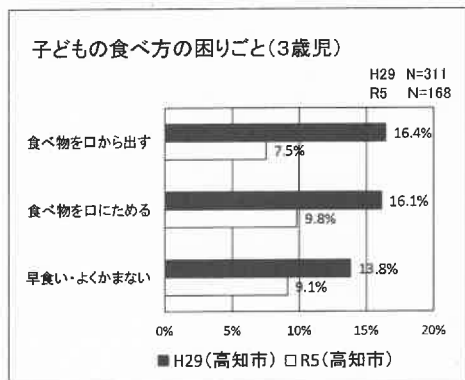
(2) 50歳以上における咀嚼良好者の割合  
国の目標 2032年: 80%

(3) 40歳以上における自分の歯が19歯以下の者の割合  
(再掲) 国の目標 2032年: 5%

## 子どもの食べ方の困りごと(3歳児)

【前回と比較】

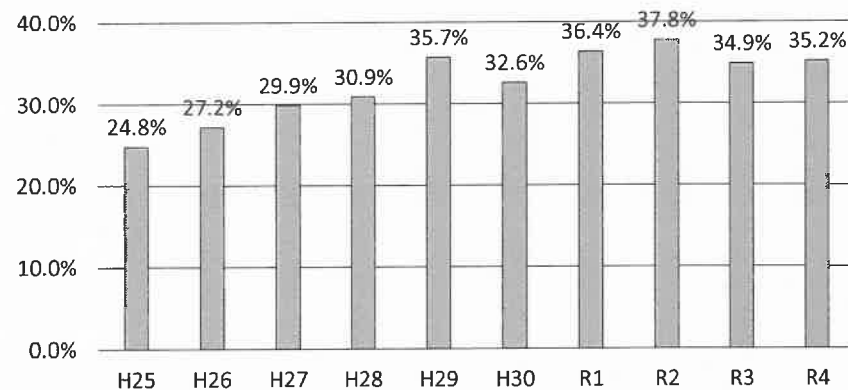
【全国と比較】



高知市:平成29年度, 令和5年度高知市健康づくりアンケート(3歳児用)  
 全国:平成27年度乳幼児栄養調査より抜粋

前回の調査と比べて困りごとは減少しているが, H27の全国と比較するとまだ多い。

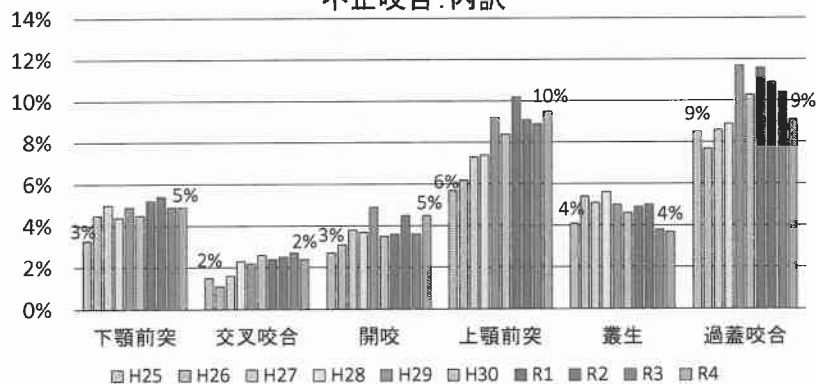
## 3歳児歯科健診結果 経年変化 (不正咬合所見あり)



不正咬合所見ありの者の割合は, 平成25年度と比較すると10%以上増加している。

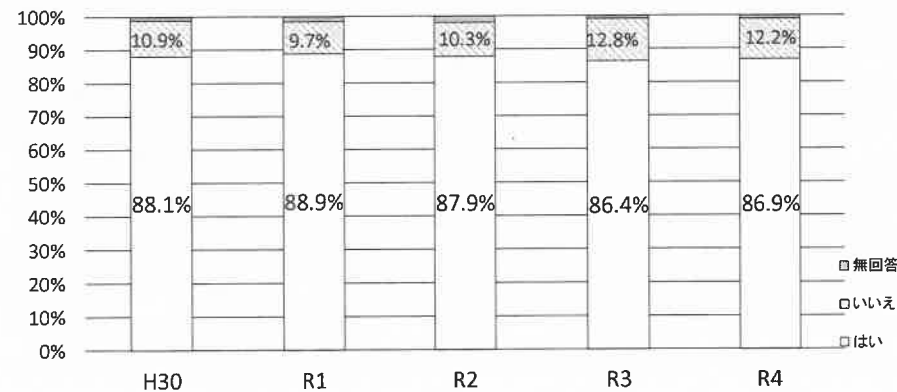
## 3歳児歯科健診結果 経年変化 (不正咬合)

不正咬合:内訳



上顎前突が増加してきている。  
 過蓋咬合は増減はあるが, 令和4年度は上顎前突について多い。

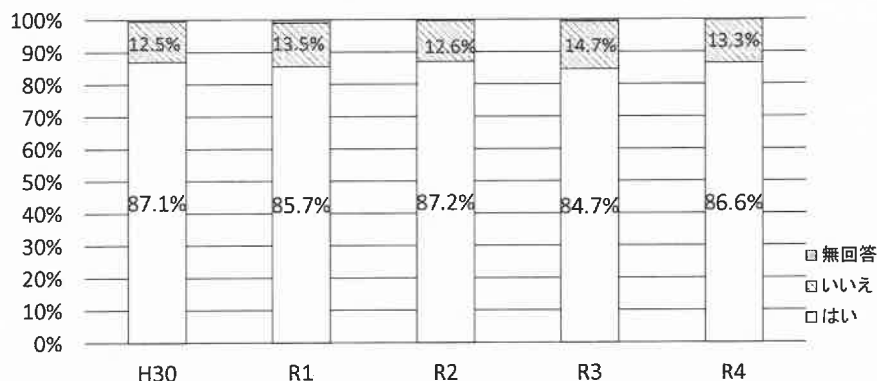
## 3歳児健診問診結果 経年変化 奥歯でよくかんでいる者の割合



奥歯でよくかんでいる者の割合はあまり変化がない。



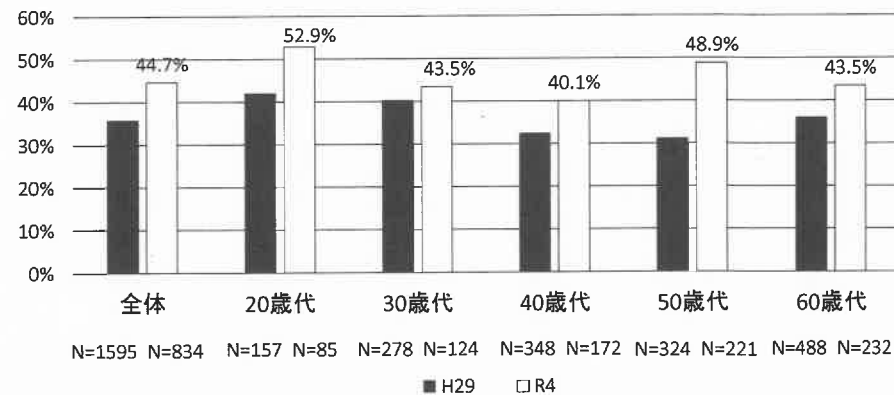
### 3歳児健診問診結果 経年変化 ぶくぶくうがいをしている者の割合



ぶくぶくうがいをしている者の割合はあまり変化がない。

### 令和5年度高知市健康づくりアンケート結果

### ゆっくりよくかんで食べることができる者の割合 【年代別, 前回と比較】



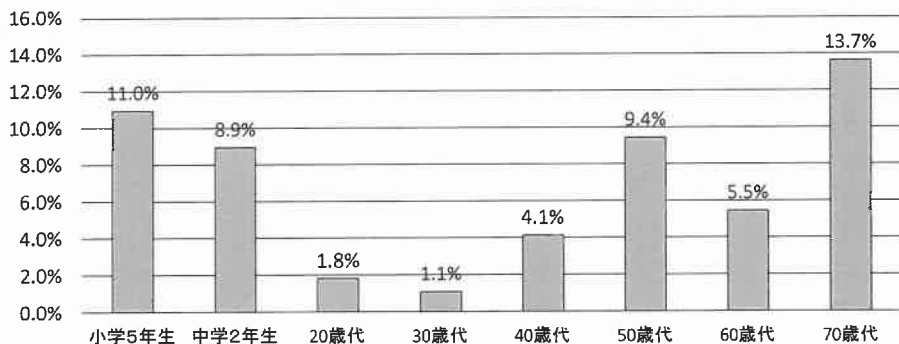
すべての年代が前回より増加おり, 特に50歳代が増加していた。

### 令和5年度高知市食育に関するアンケート調査結果

### 口の体操をしている者の割合

(口の健康のために気をつけていること 複数回答の中から抜粋)

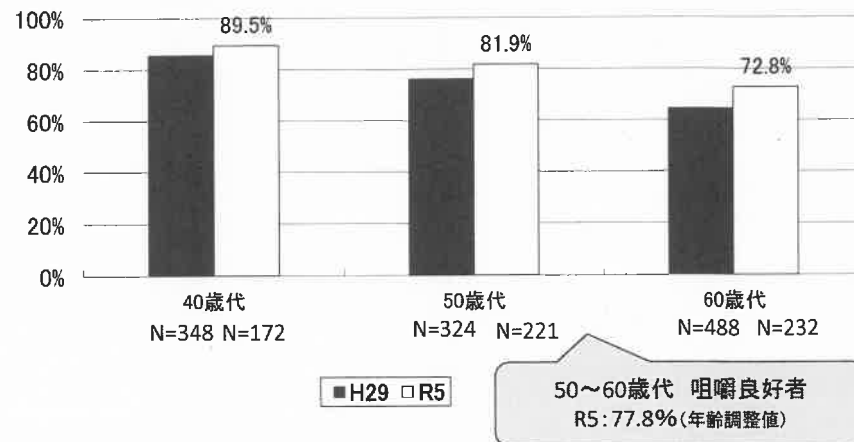
口の体操をする(あいうべ体操, かみかみ百歳体操など)



口の体操をしている割合は70歳代が一番多く13.7%, ついで小学5年生11.0%だった。中学2年生も8.9%実施していた。

### 令和5年度高知市健康づくりアンケート結果

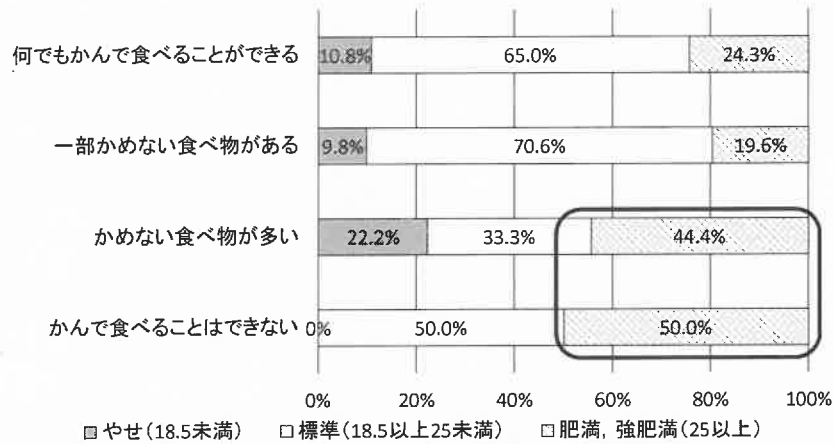
### 何でもかんで食べることができる者の割合 【40歳以上, 年代別】



50~60歳代 咀嚼良好者  
R5: 77.8% (年齢調整値)

40歳以上の何でもかんで食べることができる(咀嚼良好者)の割合は, 前回に比べて増加している。

## 咀嚼の状態とBMI



かめない食べ物が多い、かんで食べることはできない者は、肥満、強肥満の割合が高かった。

37

## 5. 歯科口腔保健を推進するために必要な社会環境の整備

### 歯科検診の受診機会及び歯科検診の実施体制等の整備

#### (1) 過去1年間に歯科検診を受診した者の割合

国の目標 2032年:95%

#### (2) 法令で定められている歯科検診を除く歯科検診を実施している市町村の割合

国の目標 2032年:100%

### う蝕予防の推進体制の整備

#### 15歳未満でフッ化物応用の経験がある者

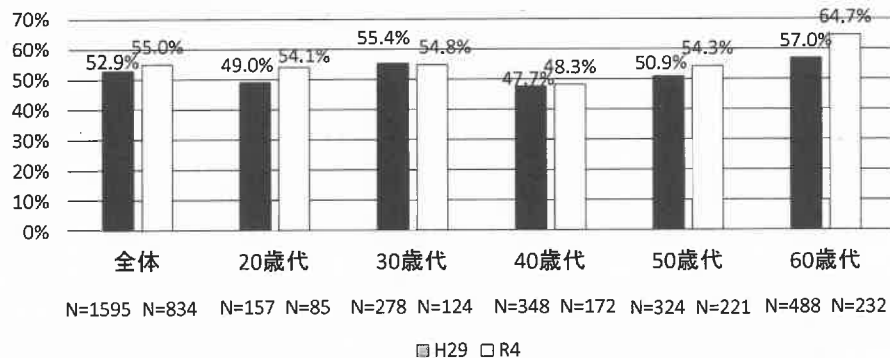
国の目標 2032年:80%

38

## 1年間に歯科検診を受けた割合

【年代別・前回(歯の健康づくりのために年に1回以上歯科受診している割合)と比較】

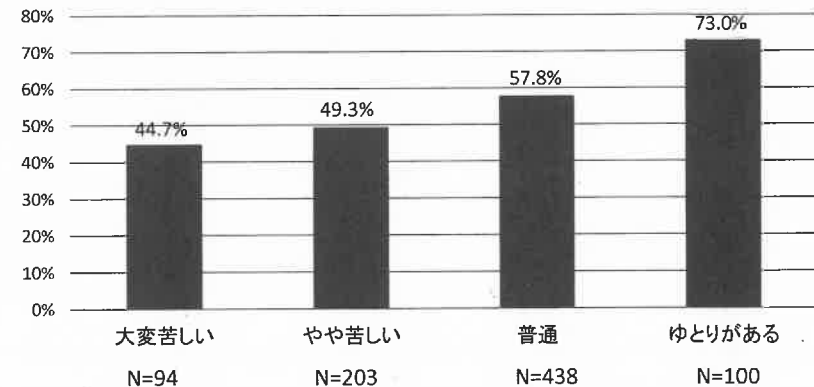
年に1回以上歯科検診を受診した者の割合



全体では55.0%だった。前回と比べて30歳代以外は増加していた。

39

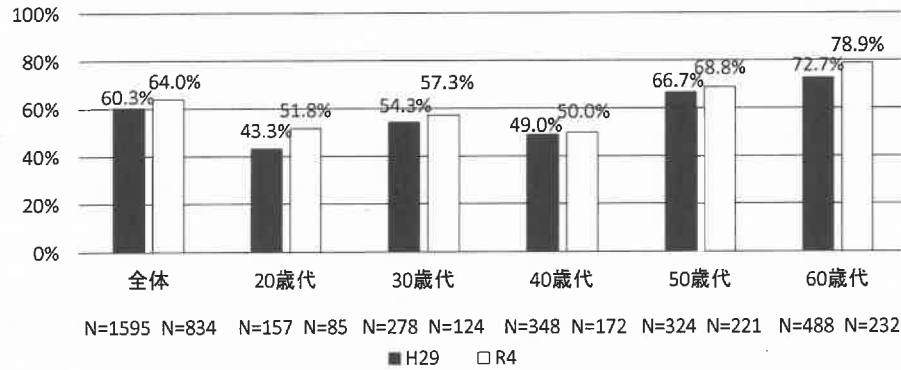
## 1年間に歯科検診を受けた割合【暮らし向き】



暮らし向きにゆとりがある人は歯科受診している割合が一番高かった。

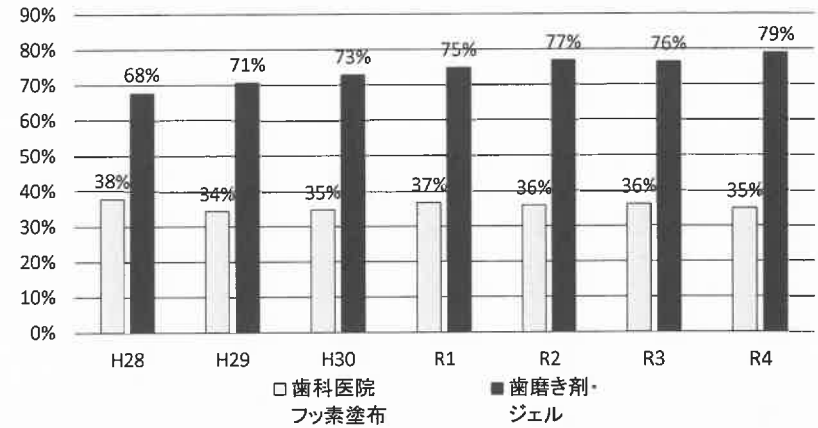
40

## かかりつけ歯科医のいる割合 【性・年代別, 前回との比較】



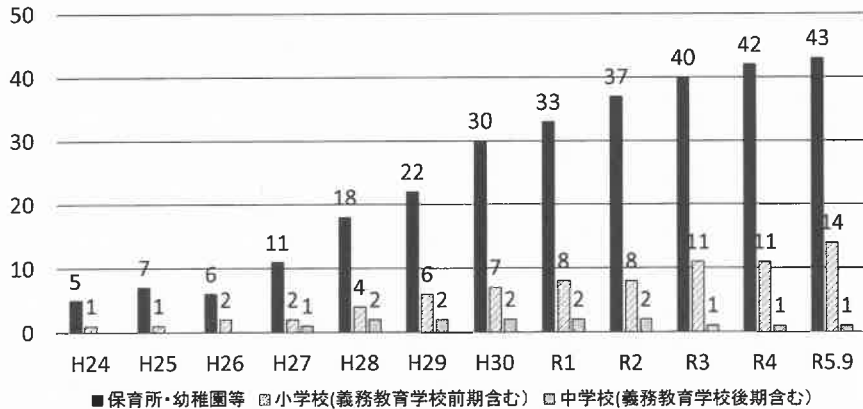
全体では64.0%だった。前回と比べてどの年代も増加していた。

## 3歳児健診問診結果 経年変化 (フッ化物使用状況)



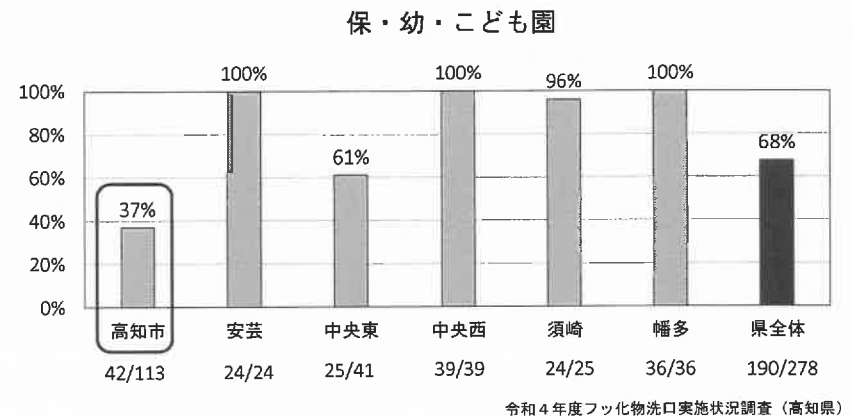
歯科医院でフッ素塗布をしている者の割合はあまり変化がない。歯磨き剤、ジェルを使用している者の割合は少しずつ増加しており、令和4年度は79%であった。

## フッ化物洗口実施施設数



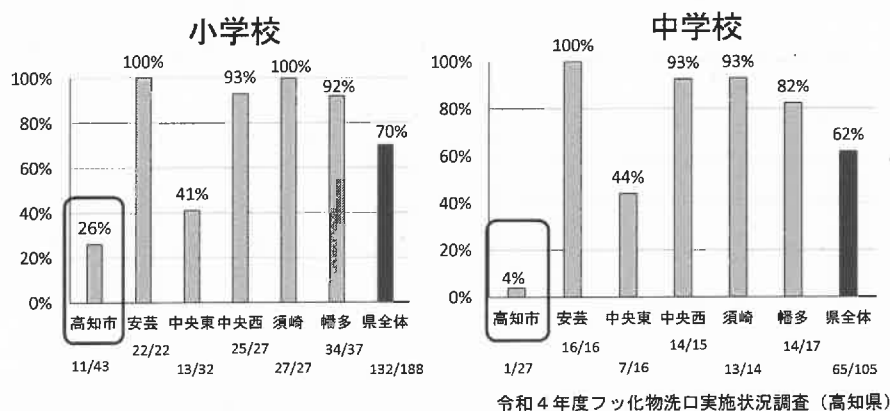
保育所、幼稚園は、令和4年度は2園、令和5年度は1園開始した。  
小学校は、令和4年度は0校だったが、令和5年度は3校開始した。

## 令和4年度フッ化物洗口実施率 (令和5年3月末現在) 【圏域別 (私立, 国立, 県立含む)】



高知市の園はだんだんと増えているが、フッ化物洗口実施施設の割合は、他圏域と比較すると少ない。

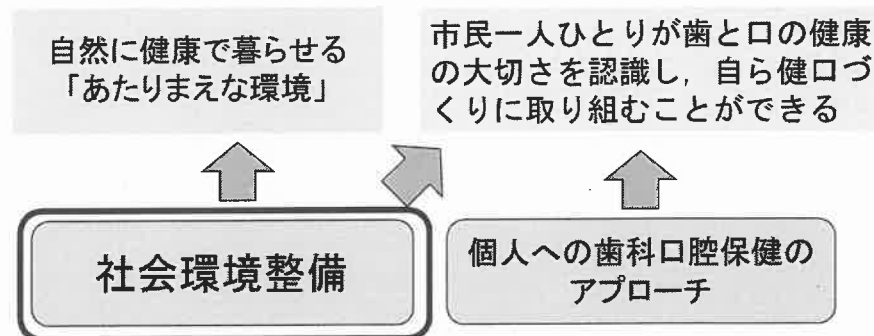
令和4年度フッ化物洗口実施率（令和5年3月末現在）  
【圏域別（私立，国立，県立含む）】



小学校，中学校ともに高知市は少ない結果となっている。  
中学校はまだまだ手つかずの状態である。

【今後の方向性 ①】

○口腔保健支援センター機能の充実を図り，きめ細かな支援を心掛けるとともに，様々な部署や関係機関等との更なる連携に力を入れ社会環境整備に取り組んでいく。



【今後の方向性 ②】

○歯・口腔の健康に関わる疾病の予防・重症化予防のために，生涯にわたる歯・口腔の健康を目指し取り組んでいく。

・幼児期から学童期，成人期のむし歯を予防するため，フッ化物の活用，定期的な歯科受診の必要性を普及啓発する。

う蝕の予防（フッ化物の活用，定期的な歯科受診）  
3歳児 ⇒ 12歳児 ⇒ 成人

・小中学校の歯肉炎予防，成人期からの重度化予防のために，歯みがき，口呼吸予防，定期的な歯科受診の必要性を普及啓発していく。

歯周病予防（歯みがき，口呼吸予防，定期的な歯科受診）

歯の喪失防止

・乳児期からの口腔機能の獲得，幼児期，学童期のかむこと，口呼吸等の悪習慣改善のための取組を強化する。

<乳児期から>  
口腔機能の獲得，よくかんで食べる，口呼吸 他，悪習慣の改善  
→家庭への啓発，園・学校等への働きかけ

・成人期以降も，何でもかんで食べられる口腔機能の維持・向上のために，オーラルフレイル予防に取り組んでいく。

<成人期>  
咀嚼良好者の増加，オーラルフレイル予防  
→若い世代からの啓発，職域，地域活動との連携

# 歯科口腔保健の取組 目標値(案)

評価指標	実績値	目標値(R16)
<b>1. 歯・口腔に関する健康格差の縮小</b>		
3歳児のむし歯の4本以上ある者の割合の減少	3.7%(R4) 3歳児健診	2.5%
12歳児の一人平均むし歯本数の減少	0.59本(R4) 高知市立学校保健調査	0.3本
40～60歳代で自分の歯が19歯以下の者の割合	11.4%(R5) 健康づくりアンケート	5%

49

評価指標	実績値	目標値(R16)
<b>歯の喪失防止</b>		
40～60歳代で自分の歯が19歯以下の者の割合(再掲)	11.4%(R5) 健康づくりアンケート	5%
<b>生活の質の向上に向けた口腔機能の獲得、維持、向上</b>		
3歳児でぶくぶくうがいをしている者の割合	86.6%(R4) 3歳児健診	90%
ゆっくりよくかんで食事する者の割合(20歳～69歳)	44.7%(R5) 健康づくりアンケート	60%
50～60歳代で何でもかんで食べることのできる者の割合	77.8%(R5) 健康づくりアンケート	90%
40～60歳代で自分の歯が19歯以下の者の割合(再掲)	11.4%(R5) 健康づくりアンケート	5%

51

評価指標	実績値	目標値(R16)
<b>2. 歯科疾患の予防</b>		
<b>う蝕の予防</b>		
3歳児のむし歯のある者の割合	10.3%(R4) 3歳児健診	6%
3歳児のむし歯の4本以上ある者の割合(再掲)	3.7%(R4) 3歳児健診	2.5%
12歳児のむし歯のある者の割合	28.9%(R4) 高知市立学校保健調査	25%
40歳の未処置歯を有する者の割合	40.7%(R4) 成人歯周病検診	30%
<b>歯周病の予防</b>		
中学生の歯肉に炎症所見を有する者の割合	27.8%(R4) 高知市立学校保健調査	23%
20代～30代における歯肉に炎症所見を有する者の割合	22.4%(R4) 健康づくりアンケート	15%
歯周病と全身への影響周知度の増加	(R5)	
・糖尿病	54.6%	60%
・早産・低出生体重児出産	34.0%	40%
・肺炎	37.4%	45%
	健康づくりアンケート	

50

評価指標	実績値	目標値(R16)
<b>歯科口腔保健を推進するために必要な社会環境の整備</b>		
1年間に歯科検診を受けた者の割合(20歳～69歳)	55.8%(R5) 健康づくりアンケート	60%
フッ化物洗口実施施設数の増加	園:37% 小学校:26% (R4)	園:70% 小学校:60%

## フッ化物洗口実施施設数

	園	小学校
R5	43	14
R6	46	15
R7	49	16
R8	52	17
R9	55	18
R10	58	19
R11	61	20
R12	64	21
R13	67	22
R14	70	23
R15	73	24
R16	76	25
	67.3%	58.1%
目標値	70%	60%

## 年間増加数

園:3園 → 67.3%  
小学校:1校 → 58.1%

コロナの影響で開始できないという施設も  
ほぼなくなると想定

目標値は 園 70%  
小学校 60% とする

52

## 第三期健康づくり計画重点目標(案)

指標	現状値(R5)	目標値(R16)
1年間に歯科検診を受けた者の割合 (20歳～69歳)	55.8%	60%
50～60歳代で何でもかんで食べることのできる者の割合	77.8%	90%
歯周病と全身への影響周知度		
・糖尿病	54.6%	60%
・早産・低出生体重児出産	34.0%	40%
・肺炎	37.4%	45%